

第 18 期事業報告

自:2022 年 7 月 1 日

至:2023 年 6 月 30 日

1. 事業の概況

公益財団法人日本バレーボール協会から独立法人化して18年目を迎えた一般社団法人日本バレーボールリーグ機構はチームが主体となってホームゲームを運営する形態に舵を切り5年目を迎えました。今年度は、シーズン半ばより新型コロナウイルスの影響も縮小し、昨年までと比較しより多くの観客をお迎えすることができ、復調の兆しを強く感じる1年となりました。そのような中で、今シーズンはこれまでに積み上げた経験を基に、必要な感染防止対策を講じた上で、競技の魅力やイベントの面白さを最大限発信し、収益最大化、事業性の維持・向上を成し遂げることを目的として対策に取り組んでまいりました。

以下、第18期事業年度の概況を取りまとめご報告いたします。

2022年9月30日に開催した第17回定時社員総会において、理事の任期満了に伴い改選となり、理事15名が選任されました。社員総会で選任された理事および監事により開催した、第18期第1回理事会において國分裕之代表理事会長の再任、大河正明副会長の新任を決定しました。また、第17回定時社員総会にて、一般社団法人福岡ウイングスピリッツ並びに株式会社ネイチャーラボの入社承認を行い、当機構の法人数は51法人(53チーム)となりました。

開幕に向けた準備を行う中、2022年夏に第7波が訪れるなど、2022-2023 V.LEAGUEも新型コロナの影響を受けてのスタートとなりましたが、5試合の中止があったものの、うち4試合については、再試合の開催も行うことができ、1試合を除くほぼ全てのレギュラーラウンドの試合を実施することができました。又、2023年4月のV・ファイナルステージ及びV・チャレンジマッチも多くの観客を各競技場にお迎えし、成功裏にシーズンを閉幕することができました。

試合の開催にあたって、選手・スタッフ、審判員は、感染リスクを抑えるために、スクリーニング検査として週1回の頻度で抗原定性検査を、昨シーズンに引き続き実施しました。シーズン中には、政府方針の変更などを踏まえ、ガイドラインを改訂し、2023年2月には声出し応援を解禁しました。

2020年より3シーズンにわたり新型コロナウイルス対策に多くの関係者、お客様の協力を仰いできましたが、2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上5類への移行に伴い、新型コロナウイルス対策の各種運用を終了としました。

一方、前年度にDAZNとの契約が終了したことによる大幅な収入減の中、新たなスポンサー企業の開拓を含めた増収努力による収入の最大化を図ることで、31百万円の黒字予算としました。しかしながら、当初見込んでいたスポンサー契約の不調により収入の減もあり大幅な赤字見込みとなりました。V・ファイナルステージ、V・チャレンジマッチの予想を大幅に上回る観客の動員による増収により一定度の回復を実現いたしましたが、全てをカバーするに至らず▲96百万円の赤字となりました。加えて、前年度排球堂マーケティング株式会社との統合に伴う該社株式の除却損を計上したこともあり、当期損失は▲120百万円となりました。

来期以降もV.LEAGUEを通常運営するためには費用削減に努めることはもちろんのこと、収益の増が必須の状況であり、スポンサーセールスの強化により収益増を図るとともに、今年度発表いたしました2024-25シーズンからの「V.LEAGUE REBORN」の成功により、リーグの価値を高め将来にわたってV.LEAGUEが安定運営できるよう取り組んでまいります。引き続きご協力の程、お願いいたします。

以下、事業内容を、詳述いたします。

2. 事業内容

(1)V.LEAGUE DIVISION1

2022-23 V.LEAGUE DIVISION1 MEN は 10 チームの参加により 2022 年 10 月 22 日にエントリオ(愛知県稲沢市)をはじめ 5 会場で開幕し、4 回戦総当たり方式による V・レギュラーラウンド 180 試合と上位 4 チームによる V・ファイナルステージ 7 試合を実施しました。

V・レギュラーラウンドは新型コロナウイルスの影響による中止はなく、すべての試合を無事開催することができ、V・レギュラーラウンド優勝はウルブドッグス名古屋となりました。ウルブドッグス名古屋をはじめサントリーサンバーズ、パナソニックパンサーズ、堺ブレイザーズの上位 4 チームによる総当たり方式のファイナル 4 を 4 月 8 日、9 日に島津アリーナ京都(京都府京都市)で、4 月 16 日にスカイホール豊田(愛知県豊田市)で開催しました。ウルブドッグス名古屋とサントリーサンバーズによるファイナルを、2023 年 4 月 23 日に代々木第一体育館(東京都渋谷区)で行い、ウルブドッグス名古屋が 3-0 で勝利し、昨年の雪辱を果たし、見事に 7 年ぶり 2 度目の優勝を飾りました。

2022-23 V.LEAGUE DIVISION1 WOMEN は 12 チームの参加により 2022 年 10 月 29 日にとどろきアリーナ(神奈川県川崎市)をはじめ 6 会場で開幕し、3 回戦総当たり方式による V・レギュラーラウンドを行いました。V・ファイナルステージは V・レギュラーラウンドの上位 4 チームによる 7 試合を実施しました。新型コロナウイルスの影響により V・レギュラーラウンド 198 試合のうち 2 試合が中止となりましたが、再試合の設定を行い、すべての試合を実施することができ、レギュラーラウンドは東レアローズの優勝となりました。東レアローズをはじめ埼玉上尾メディックス、久光スプリングス、NEC レッドロケッツの上位 4 チームによる総当たり方式のファイナル 4 を 4 月 8 日、9 日に高崎アリーナ(群馬県高崎市)で、4 月 15 日にスカイホール豊田(愛知県豊田市)で開催しました。東レアローズと NEC レッドロケッツによるファイナルは、最終セットまでもつれる展開となり、NEC レッドロケッツが見事に優勝を飾り、6 年ぶり 7 回目の優勝となりました。

コロナの影響が縮小する中にあり、2 試合が中止となったものの、各チームの努力と都道府県協会のご協力により再試合を開催することができ、全ての試合を開催することができました。観戦入場者数をみると、大会合計で 461,084 人(対前年比 213,164 人増)、MEN は 263,221 人(対前年比 124,965 人増)、WOMEN はレギュラーラウンドの試合数が増加したこともあり 197,863 人(対前年比 88,199 人増)、となりました。1 開催日平均では、MEN が 1,431 人(対前年比 572 人増)、WOMEN が 1,192 人(対前年比 409 人増)でした。

今シーズンより EASY PRODUCTION 株式会社協力のもと、新配信サービス V.TV イージースポーツをスタートしました。V.TV イージースポーツでは、今シーズン、DIVISION1 全試合ならびに男女オールスターゲーム、V・チャレンジマッチと DIVISION2 のファイナルステージ全試合をライブ配信し、多くのファンの皆さまに Vリーグの試合をお届けすることができました。また、テレビ放送については、BS 放送で男女計 6 試合(NHK BS1、BS フジ、BS Japanext)、CS 放送で男女計 56 試合(GAORA、フジテレビ ONE・TWO・NEXT)、地上波(ローカル放送)でも男女計 24 試合を放送いただきました。

(2)V.LEAGUE DIVISION2・3

2022-23 V.LEAGUE DIVISION2 MEN は 10 チームによる 3 回戦総当たり方式で全 134 試合を実施しました。大会はヴォレアス北海道が昨年度に続き、連続優勝を飾りました。

2022-23 V.LEAGUE DIVISION2 WOMEN は 11 チームによる 2 回戦総当たりの V・レギュラーラウンドと上位 3

チームによるV・ファイナルステージの競技形式で、V・レギュラーラウンド 110 試合 V・ファイナルラウンド 2 試合全 112 試合を開催しました。大会はプレステージ・インターナショナルアランマーレが初優勝を飾りました。

男女合計で 246 試合をのべ 54 会場(男子 28 会場、女子 26 会場)で開催することができた一方、リモートマッチを余儀無くされた大会が 2 試合あり、1 試合が中止となり延期・再試合の設定を行うことができませんでした。観戦入場者数をみると男女合計で 74,082 人(対前年比 49,311 人増)、MEN は 35,467 人(対前年比 28,823 人増)、WOMEN は 38,615 人(対前年比 20,488 人増)となりました。1開催日平均では MEN は 467 人(前年比 151 人増)、WOMEN は 576 人(前年比 182 人増)でした。

2022-23 V.LEAGUE DIVISION3 MEN は 10 チームによる 3 回戦総当たり方式で全 135 試合を実施いたしました。大会はトヨタ自動車サンホークスが優勝を飾りました。29 会場で試合を開催することができ、4 試合のリモートマッチがあったものの、ほとんどの試合が有観客での開催となり、観戦入場者数は 15,293 名、1開催日平均では 204 名となりました。

今シーズンは新型コロナウイルスによる影響も縮小し、日常を取り戻しつつある中で、シーズンを深める中で、昨シーズンから大幅に人の流動が高まり観戦入場者数を増加することが出来ました。

(3)V・チャレンジマッチ

2022-23V・チャレンジマッチ女子大会は 2023 年 4 月 8 日、9 日にシティホールプラザ アオーレ長岡(新潟県長岡市)にて開催しました。DIVISION2 優勝のプレステージ・インターナショナルアランマーレが DIVISION1・12 位のヴィクトリーナ姫路と、DIVISION2 準優勝の群馬銀行グリーンウイングスが DIVISION1・11 位の岡山シーガルズと 2 戦方式で対戦しました。結果はプレステージ・インターナショナルアランマーレが勝利数で DIVISION1 昇格を、岡山シーガルズが同じく勝利数で DIVISION1 残留を決めました。

2022-23V・チャレンジマッチ男子大会は、V1・V2 男子入替戦を 2023 年 4 月 8 日、9 日にひたちなか市総合運動公園体育館(茨城県ひたちなか市)にて開催しました。V1・V2 入替戦は、DIVISION2 優勝のヴォレアス北海道が DIVISION1・10 位の大分三好ヴァイセアドラーと、DIVISION2 準優勝の富士通カワサキレッドスピリッツが DIVISION1・9 位の VC 長野トライデンツと 2 戦方式で対戦しました。結果は、ヴォレアス北海道が勝利数で DIVISION1 昇格を、VC 長野トライデンツも勝利数で DIVISION1 残留を決めました。V2・V3 男子の入替戦は 2023 年 4 月 8 日、9 日にオガールアリーナ(岩手県紫波郡)で開催しました。DIVISION3 優勝のトヨタ自動車サンホークスが DIVISION2・10 位の兵庫デルフィーノと、DIVISION3 準優勝のクボタスピアーズが DIVISION2・9 位の大同特殊鋼レッドスターと 2 戦方式で対戦しました。結果は、DIVISION3 のトヨタ自動車サンホークス、クボタスピアーズがともに 2 試合通算の勝利数で DIVISION2 昇格を決めました。

(4)その他大会

① 2022 V・サマーリーグ(女子大会)

2022 V・サマーリーグは東西 2 箇所に分かれ、いずれも 2022 年 7 月 1 日～3 日に、東部大会は深谷市総合体育館(埼玉県深谷市)にて 13 チームが参加し、西部大会はヴィクトリーナウイング体育館(兵庫県姫路市)で 12 チームが参加しました。東部大会は PFU ブルーキャッツが昨年に続き 3 度目の優勝、観戦入場者数は 3 日間で 2,253 名でした。西部大会は JT マーヴェラスが優勝し、観戦入場者数は 3 日間で 2,672 名でした。また、大会期間中に印象に残る活躍をし、かつ将来性の高い選手に贈られる「フレッシュスター賞」には各 DIVISION から東西それ

ぞれ1名ずつ計4名が選ばれました。

② 2022-23 V.LEAGUE DIVISION1 ALL STAR GAME in AICHI

2022年12月24日に女子オールスターゲームを、25日に男子オールスターゲームをエントリオ(愛知県稲沢市)で開催しました。男女ともにオールスターゲームではTeam ブイリーとTeam ブイきちに分かれて試合を行いました。その結果、女子ではTeam ブイきちが、男子ではTeam ブイリーが、それぞれセットカウント3対2で勝利し会場を盛り上げました。観客は、全体で3,486人となりました。

③ 2022Vリーグジュニア選手権

2022年8月27日、28日にVリーグジュニア選手権大会を岐阜メモリアルセンター(岐阜県岐阜市)で開催しました。男子は17チーム、女子は18チームが参加し、2日間の熱戦を繰り広げました。男子は、WOLFDogs名古屋ジュニアU-14が優勝、パンサーズジュニアが準優勝、女子は、ガロンズジュニアが優勝、ヴィクトリーナ姫路ジュニアが準優勝となりました。

④ 2023 アジアクラブ選手権大会

2023アジアクラブ選手権大会は、MENは2023年5月14日～5月21日にバーレーン/リファア(参加16チーム)にて開催され、サントリーサンバーズが日本代表として参加し見事初優勝を遂げました。この結果、サントリーサンバーズは、秋に開催される世界クラブ選手権への出場権を獲得いたしました。WOMENは2023年4月25日～5月2日にベトナム/ビンフックで開催され、久光スプリングスが日本代表として参加し、5位となりました。

(5) 広報/プロモーション活動

① 記者会見

2022-23 V.LEAGUEの開幕を控えた、2022年10月18日に開幕記者会見をオンサイトとオンラインのハイブリッド形式にて開催しました。DIVISION1～DIVISION3まで出場全チームから男女計61選手が参加し、会見とトークセッションを通じて大会の魅力と意気込みをPRしました。

② 2022-23 V.LEAGUE オフィシャルソング

2022-23シーズンから新たに株式会社LDH JAPANに所属する5人組ヒップホップグループの「DOBERMAN INFINITY」の「始まりの途中」をオフィシャルソングとして決定しました。開幕記者会見やV・ファイナルにも出演し、V・ファイナルステージのセット間に行われたライブでは会場が一体となり、大会を盛り上げて頂きました。

③ V.LEAGUE コラボレーション

□V.LEAGUE × 東ハト

2018-19シーズンから毎年行っている、株式会社東ハトの受験生応援商品とコラボレーションし、リベロ=ボールを「落とさない」という験担ぎ^{げんかつぎ}として、受験生応援SNSキャンペーン「#リベロからのお守り」を実施しました。東ハト公式サイト「カナエル神社」にはブイリー・ブイきちデザインの絵馬なども登場しました。

④ プロモーション活動

□V.LEAGUE オフィシャルファンサイト

2018-19 シーズンから新サイトへ移行した「V.LEAGUE オフィシャルファンサイト」は、2022-23 シーズンもファンの皆様に楽しんでいただけるコンテンツの作成や迅速な情報の提供に努めて参りました。また、2021-22 シーズンに続き、2022-23 シーズンも新型コロナウイルス対策に関するページを設け、ファンの皆さまが安心・安全にアリーナで観戦いただくための情報発信に努めました。

□公式 SNS(X(旧 Twitter)、Instagram、Facebook、YouTube、TikTok、LINE)

公式ホームページでは紹介しきれない情報や、一般報道では伝えられない選手関連情報、試合映像や写真の紹介、また選手のサイン入りグッズをプレゼントするキャンペーンなどを実施しました。今後も写真や動画を掲載し、幅広い世代のファンの皆さまにアプローチし、様々な最新情報やアリーナ外でも楽しめるコンテンツの提供に努めてまいります。2023年5月1日時点の各公式 SNS のフォロワーは X(旧 Twitter)/ 180,075 名、Instagram/ 76,994 名、Facebook/25,304 名、YouTube/73,064 名、TikTok/3,305 名、LINE/25,456 名となりました。

□Vリーグ公式チケット販売サイト(V チケ)

Vリーグ公式チケット販売サイトにて、Vリーグのチケットを販売しました。2022-23 シーズンも新型コロナウイルス感染症の影響から昨シーズンより引き続き、チケット販売におけるガイドラインを策定しました。開幕時点では全大会、全席指定席販売を必須としていましたが、2023年2月以降の大会よりチケット購入者の個人情報把握が緩和されたことに伴い、自由席の設定やコンビニ(セブン-イレブン)での販売を可としました。シーズン中にもガイドラインのチケット販売の考え方の見直しを行い、シーズン終盤には、コロナ禍前のレギュレーションでの販売ができるようになりました。

Vチケ会員数は2023年4月24日時点で134,920名となりました。

□VOLLEYBALL CARD COLLECTION(V コレ)

2022-23 シーズンより株式会社 Tixplus の開発・運営のもと Vリーグ公式カードコレクションサービスとして「VOLLEYBALL CARD COLLECTION(V コレ)」をリリースしました。DIVISION1 で活躍する選手のプレーシーンをデジタルカードとして配信するサービスで、幅広いデザイン展開でファンの皆様に楽しんでいただきました。

また、オールスター、バレンタイン、ホワイトデーに合わせ、V コレと連動したオンラインくじ「V くじ」の販売も行うなど、様々なサービスを提供した結果、加入者は、シーズンで 21,651 名となりました。

⑤ 映像配信

□V.TV イージースポーツ

今シーズンより EASY PRODUCTIN 株式会社と連携し、「V.TV イージースポーツ」として新たなサービスを開始しました。V.TV イージースポーツでは、2022-23V.LEAGUE DIVISION1 MEN 及び DIVISION1 WOMEN の全試合と他の DIVISION の注目試合をライブ、見逃し配信したほか、V.LEAGUE の魅力をより深く知っていただくオリジナル番組の配信も行いました。

(6)社会貢献活動

①日本骨髄バンク支援活動

Vリーグ機構では、社会貢献活動の一環として、2006/07 シーズンより公益財団法人日本骨髄バンクへの支援活動を行ってきました。2022-23 シーズンも全国各地の V.LEAGUE 大会の会場に横断幕やのぼりを設置する等、骨髄バンクの活動を啓蒙いたしました。

(7)普及活動

①V・明日夢(みらい)プロジェクト

「V・明日夢(みらい)プロジェクト」は、2012年11月にスタートし、全国でバレーボールの普及に努めてきました。Vリーグ選手のOB/OGで構成する講師の登録数も140名を超えました。今年度は新型コロナウイルスの影響が徐々に弱まる中、昨年度に比べて活動の機会が増加しました。

□「V・明日夢プロジェクト」バレーボール教室

今年度のV・明日夢プロジェクトバレーボール教室は全国15会場での開催となりました。いずれの会場においても感染拡大防止策を講じた中での実施となりました。教室は株式会社ビジネスブレイン太田昭和協賛などにより行われ、小中高生などを対象にのべ1,268名が参加し、講師はのべ45名が参加しました。

□V・明日夢プロジェクト・武蔵野市内小中学校訪問 活動記録

東京都武蔵野市教育委員会にご協力いただき、武蔵野市内の小中学校16校へ訪問し、バレーボールの素晴らしさを伝えました。

□日野市立平山中学校女子バレーボール部 with V・明日夢プロジェクト

東京都日野市体育協会様からの依頼を受け、V・明日夢プロジェクトでは2022年5月～2023年3月までの期間、平山中学校への部活動指導を12回行いました。

(8)研修会・委員会活動

① プレーヤーズミーティング・若手研修会

プレーヤーズミーティングにはVリーグ各チームから32名、若手研修会には181名が参加しました。今年度は、プレーヤーズミーティングはオンサイトで、若手研修会はWEBによる配信方式にて実施しました。内容は共通研修として2021-22 Vリーグの振り返りとコンプライアンス研修を実施するとともに、プレーヤーズミーティングではグループディスカッションも行いました。

開催日時: 【開催】2022年7月23日11:00～17:00(プレーヤーズミーティングのみ)

【配信期間】2022年8月1日～9月14日(若手研修会のみ)

開催方式: 【プレーヤーズミーティング】 実開催

【若手研修会】 WEB研修会方式

出席対象者: 【プレーヤーズミーティング】 Vリーグ各チーム代表選手

【若手研修会】 Vリーグ所属3年目までを目安とした若手選手

② 2022-23 V.LEAGUE キックオフミーティング

キックオフミーティングを開催して、V.LEAGUE 大会の運営に関する説明を行いました。今年度は WEB 方式での開催となりました。

開催日時:	2022年9月3日 14:00~16:00
開催方式:	WEB 会議方式
出席対象者:	V.LEAGUE チーム担当者、JVA、都道府県バレーボール協会、 全国ブロック理事長、JURY など

③ JURY 会議

JURY が一堂に会し、2022-23 V.LEAGUE の運用の確認を行いました。

開催日:	2022年9月23日 13:00~18:00
開催方式:	堺市堺高等学校での実開催と WEB 会議によるハイブリッド方式
出席対象者:	JURY

④ レフェリークリニック

2022-23 V.LEAGUE の運用の重要事項を確認するレフェリークリニックを開催しました。

開催日:	2022年9月24日 12:00~15:15
開催方式:	日本製鉄堺体育館での実開催と WEB 会議によるハイブリッド方式
出席対象者:	JURY、Vレフェリー、V.LEAGUE チーム監督

⑤ ゲームコーディネータークリニック

大会の競技以外部分の全体のコントロールを行う、ゲームコーディネーターが集まり、その役割と今シーズンの運用等について確認を行いました。WEB 方式で開催しました。

開催日時:	2022年9月17日 13:00~14:00
開催方式:	WEB 会議方式
出席対象者:	ゲームコーディネーター

⑥ 各種委員会活動

Vリーグ機構の委員会は、理事会・運営会議等の Vリーグ機構主要会議により発議発案された課題や問題など、主に Vリーグ機構運営上の重要問題に関して会長が諮問するテーマについて、理事・チーム代表・事務局・外部有識者などが委員となり、研究内容・方向性・一定の結論などを運営会議で報告・提案や理事会・会長に答申する役割を担っています。

主要な小委員会として「技術情報委員会」、「ライセンス審査委員会」、「Vリーグ審判運営委員会」、「規程・マニュアル委員会」、「コンプライアンス委員会」、「メディカル委員会」などがあり、活動を行いました。

(9)助成金

独立行政法人日本スポーツ振興センターより、我が国における国際競技力の向上を期すための国の助成金制度「競技強化支援事業助成金(国庫基金)」(2003年度～)および「スポーツ振興くじ助成金」(2011年度～)の交付を受けています。今年度については、両助成金で76百万円の交付を受け、マネジメント機能強化、研修会やDIVISION1の活性化およびDIVISION2・3の強化育成・活性化に活用しました。今年度までの交付累計受入額は792.4百万円に達しています。

今後とも制度の主旨に沿った有効活用を心がけ、改善改革に努め、組織基盤の強化を図り、バレーボール界の普及・発展に邁進してまいります。

(10)協賛金

今シーズンもDIVISION1へ各企業より継続的に協賛をいただくことができました。協賛いただきました各企業の皆様と、お世話になりました株式会社電通に厚く御礼申し上げます。

しかしながら、結果として協賛金は減額となりました。今後、V.LEAGUEを安定的に運営するためには、協賛いただける企業の獲得は必須であり、そのためにもV.LEAGUEの価値向上に向けて最大限努力して参る所存です。

社員の皆様におかれましても、Vリーグ機構、日本バレーボール界の発展のため、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

3. 社員一覧

*社員名、チーム名は 2023 年 6 月 30 日現在（順不同）

社員名	チーム名	区分	基金の口数	基金の額（円）
公益財団法人日本バレーボール協会			12	6,000,000
岡山シーガルズ株式会社	岡山シーガルズ	女子	1	500,000
サントリーホールディングス株式会社	サントリーサンパーズ	男子	1	500,000
株式会社デンソー	デンソーエアリービーズ	女子	1	500,000
東レ株式会社	東レアローズ	男子	1	500,000
	東レアローズ	女子	1	500,000
TG SPORTS 株式会社	ウルフドッグス名古屋	男子	1	500,000
日本たばこ産業株式会社	JT サンダーズ広島	男子	1	500,000
	JTマーヴェラス	女子	1	500,000
日本電気株式会社	NEC レッドロケッツ	女子	1	500,000
SAGA 久光スプリングス株式会社	久光スプリングス	女子	1	500,000
日立 Astemo 株式会社	日立 Astemo リヴァーレ	女子	1	500,000
株式会社ブレイザーズスポーツクラブ	堺ブレイザーズ	男子	1	500,000
パナソニックスポーツ株式会社	パナソニックパンサーズ	男子	1	500,000
一般社団法人上尾中央医科グループ協議会	埼玉上尾メディックス	女子	1	500,000
株式会社大野石油店	大野石油広島オイラーズ	女子	1	500,000
近畿クラブ	近畿クラブスフィード	男子	1	500,000
警視庁特科車両隊	警視庁フォートファイターズ	男子	1	500,000
株式会社ジェイテクト	ジェイテクト STINGS	男子	1	500,000
医療法人青雲白鷺会三好内科・循環器科医院	大分三好ヴァイセアドラー	男子	1	500,000
大同特殊鋼株式会社	大同特殊鋼レッドスター	男子	1	500,000
一般社団法人つくばユナイテッドサンガイア	つくばユナイテッド SunGAIA	男子	1	500,000
医療法人社団天宣会	千葉エンゼルクロス	女子	1	500,000
トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車サンホークス	男子	1	500,000
トヨタ車体株式会社	トヨタ車体クインシーズ	女子	1	500,000
一般社団法人東京ヴェルディクラブ	東京ヴェルディ	男子	1	500,000
富士通株式会社	富士通カワサキレッドスピリッツ	男子	1	500,000
一般社団法人 KUROBE アクアフェアリーズ	KUROBE アクアフェアリーズ	女子	1	500,000
株式会社 PFU	PFU ブルーキャッツ	女子	1	500,000
NPO 法人阪神バレーボールコミュニティ	兵庫デルフィーノ	男子	1	500,000
株式会社きんでん	きんでんトリニティーブリッツ	男子	1	500,000
トヨタモビリティ東京株式会社	トヨタモビリティ東京スパークル	男子	1	500,000
グリーン・サポート・システムズ株式会社	GSS 東京サンビームズ	女子	1	500,000
ぎふ農業協同組合	JA ぎふリオレーナ	女子	1	500,000
NPO 法人アザレア・バレーボール振興会	埼玉アザレア	男子	1	500,000
株式会社 VC 長野クリエイトスポーツ	VC 長野トライデント	男子	1	500,000
一般社団法人プレス浜松	プレス浜松	女子	1	500,000
株式会社信州スポーツプロモーション	長野 GaRons	男子	1	500,000
株式会社 VOREAS	ヴォレアス北海道	男子	1	500,000
株式会社ヴィアティン三重ファミリークラブ	ヴィアティン三重	男子	1	500,000
	ヴィアティン三重	女子	1	500,000
NPO 法人 NBK dreamers	奈良ドリーマーズ	男子	1	500,000
株式会社群馬銀行	群馬銀行グリーンウイングス	女子	1	500,000
株式会社プレステージ・インターナショナル	プレステージ・インターナショナルアランマーレ	女子	1	500,000
株式会社姫路ヴィクトリーナ	ヴィクトリーナ姫路	女子	1	500,000
株式会社サフィールヴァ	北海道イエロースターズ	男子	1	500,000
ルートインジャパン株式会社	ルートインホテルズブリリアントアリーズ	女子	1	500,000
一般社団法人千葉ライズ	千葉 ZELVA	男子	1	500,000
株式会社クボタ	クボタスピアーズ	男子	1	500,000
アイシン辰栄株式会社	アイシンティルマーレ	男子	1	500,000
株式会社プロス	フォレストリヴズ熊本	女子	1	500,000
一般社団法人ネオバレーボールクラブ仙台	リガール仙台	女子	1	500,000
一般社団法人福岡ウイニングスピリッツ	福岡ウイニングスピリッツ	男子	1	500,000
株式会社ネイチャーラボ	東京グレートベアーズ	男子	1	500,000
合計	(51 法人) (53 チーム)		63	32,500,000

4. 役員一覧

2023年6月30日現在

代表理事 (会長)	くにぶ ひろゆき 國分 裕之	1958年(昭和33年)4月13日生 第14期～第15期理事、第16期～第17期代表理事会長 全日空商事(株) 代表取締役社長
理事 (副会長)	おおかわ まさあき 大河 正明	1958年(昭和33年)5月31日生 びわこ成蹊スポーツ大学 学長
理事	はやの ようじ 早野 容司	1960年(昭和35年)3月3日生 第6期～第11期監事、第12期～第17期理事 (公財)日本バレーボール協会ハイパフォーマンス事業本部 男子強化副委員長 ジェイテクトセールス(株) 代表取締役社長
理事	のだ けんいち 野田 謙一	1972年(昭和47年)1月18日生 NECレッドロケッツ ディレクター
理事	おおばやし もとこ 大林 素子	1967年(昭和42年)6月15日生 第14期～第17期理事 (株)ホリプロ、スポーツキャスター
理事	やまもと たかひろ 山本 隆弘	1978年(昭和53年)7月12日生 第16期～第17期理事 (株)T-FIVE 代表取締役
理事	しもむら えいじ 下村 英士	1959年(昭和34年)10月31日生 第16期～第17期理事 (一財)広島県バレーボール協会 専務理事
理事	すぎやま あけみ 杉山 明美	1965年(昭和40年)3月1日生 第16期～第17期理事 (公財)日本バレーボール協会ハイパフォーマンスサポート委員会 ニュートリションユニット顧問 (株)クリスタル・SUGIYAMA AKEMI 代表取締役
理事	こいけ のりこ 小池 徳子	1962年(昭和37年)9月17日生 第16期～第17期理事 公認会計士小池事務所
理事	なかい ようこ 中井 陽子	1965年(昭和40年)7月19日生 ルーチェ法律事務所 所長弁護士
理事	かつらだ たかゆき 桂田 隆行	1975年(昭和50年)4月21日生 (株)日本政策投資銀行 地域調査部 審議役(シニアプリンシパル)
理事	やじま ひさのり 矢島 久徳	1965年(昭和42年)6月17日生 (公財)日本バレーボール協会 ハイパフォーマンス事業 本部長
理事	しいば まこと 椎葉 誠	1981年(昭和56年)12月16日生 (株)ヴィアティン三重ファミリークラブ 常務取締役

理事	宇津木 幸夫 うつぎ ゆきお	1963年(昭和38年)2月1日生 群馬銀行グリーンウイングス 部長
理事	光山 秀行 みつやま ひでゆき	1962年(昭和37年)6月21日生 (一社)近畿クラブスフィード 代表理事
監事	横井 俊広 よこい としひろ	1960年(昭和35年)3月8日生 第14期～第17期監事 (一社)愛知県バレーボール協会 理事・副会長 TG SPORTS(株) 代表取締役社長、ウルフドッグス名古屋 SGM TG ウェルフェア(株)取締役社長

